

暮らし・定住部会

◇ 部会の経過

日時・場所等	内容
第1回暮らし・定住部会(第4回市民会議) 平成24年4月18日(水) 18:30~20:30 野幌公民館 ホール	マトリックス(縦軸にハード・ソフト・ハートづくり、横軸に短期・中期・長期)に第1回~第3回市民会議で出された意見を整理。
第2回暮らし・定住部会(第5回市民会議) 平成24年5月16日(水) 18:30~20:45 野幌公民館 研修室2号	姉妹都市・友好都市、情報図書館に関する資料について、事務局から説明。 第1回部会で整理したマトリックスをもとに、各界各層からの新規意見も踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマを検討。
第3回暮らし・定住部会(第7回市民会議) 平成24年7月27日(金) 18:30~21:10 市役所 西棟会議室1号・2号	第6回市民会議(全体会議)での意見交換を踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマをさらに議論。意見の絞り込みを行い、戦略テーマを決定。
第4回暮らし・定住部会(第8回市民会議) 平成24年8月29日(水) 18:30~21:10 市役所 市長公室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第3回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。

◇ 部会委員の構成

氏名	所属・職名等
千里 政文	部会長・有識者委員 北翔大学大学院 生涯学習学研究科 教授
大作 美佳	市民委員
神 千加	市民委員
諏訪部 容子	市民委員
富沢 裕司	市民委員
松本 教子	市民委員
水野 功	市民委員

◇ 部会長報告（議論の概要や方向性、部会の想いなど）

暮らし・定住部会は、江別全市民が暮らしやすく、住む魅力に溢れるまちにすることが重要である。部会では、市民会議で出された意見を分類化し、「子育てしやすいまちづくり・文教のまち（学園都市）・暮らしの情報発信・住まいづくり（空家対策）」を戦略テーマとし実現への方策として検討している。

現在、江別市は少子高齢化の影響もあり、平成17年をピークに人口が減少しており、早急な少子高齢化対策が必要である。減少を止めるためにも、子育てしやすいまちづくりや、空き地・空き家対策は特に重要である。また、江別市には4大学・2短大があることから、多くの学生が生活しており、大学施設の活用、教育機関の連携による文教のまちづくりが考えられる。さらに、市民会議からの意見として、暮らしに役立つ情報などが、市民に上手く伝えられておらず、情報発信の拠点が重要ということが挙げられていることは、市民が暮らす上で必要不可欠な情報や、困難を抱えた時の相談場所などの情報を得るシステムなどにも不備が考えられ、暮らしやすく、赤ちゃんから高齢者まで誰もが長く住みたいと望まれるまちにするという点において非常に重要であると考え。 (長文のため⇒分割)

これまでに議論され、提言が行われたことにより、市民の意見を実際に行う為のシステム作りも重要であることが明らかとなった。特に市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等と行政とが、共に考え、意見や知恵を出し合いながら反映させ、具体的に実現させてゆく仕組み作りが必要であり、継続的に行う事が重要である。

暮らし・定住部会 部会長 千里 政文

1. まちづくり政策提言

～暮らし・定住分野におけるまちづくり全体の方向性（マトリックス図参照）

(1) 短期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> ① 共稼ぎ世帯への子育て支援体制 (例. 保育園の待機児童対策と利用時間の拡大、一時預かり事業の対象年齢拡大、子育て支援施設、認定こども園の増設、病児・病後児保育の充実) ② 教育特区などによる魅力的な学校づくり (例. 中高一貫校、コミュニティ立学校の設置) ③ 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. ミニFM局の開設、情報発信源に情報図書館を活用、バスの外装等にえべちゅんを活用) ④ 若年層が土地を購入しやすい仕組みづくり
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育特区などによる魅力的な学校づくり (例. 放課後の教育環境の充実、小学校での英語教育の充実、高校生の大学の講義への参加、保育園での自然体験型の行事、海外留学生の積極的な受け入れ、低年齢からの国際的な交流や学習、江別の歴史教育、高校生の市外流出を防ぐ独自の取り組み) ② 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 江別のブランドイメージをつくり広く発信、公共施設・大学関係などの情報の共有・ネットワーク化、分かりやすい子育て支援情報の発信、市内イベントの積極的な周知、市長ブログ・ツイッター・フェイスブック・新聞などを活用したPR、安全なまちづくりを進めてPR、江別の長所を調べる調査を転入者に実施、情報図書館等の月曜開館) ③ 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 子育て支援センターの開館時間の延長、学童保育の受け入れ時間の統一と延長、障がい児保育の充実、医療費負担の軽減、医療費助成の年齢拡大、公費による予防接種の充実、産科・小児科の充実、保育ママ制度の導入、幼児教育施策の充実、乳幼児期の子どもの施策を総合的に所管する部署の設置、就学前児童と高齢者や地域との交流、大麻地区の人口増加対策)
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもをいっぱい産んで育てたいと思えるまちづくり (例. 民間保育園の保育士の加配、「障がい児保育」を「特別支援保育」へ名称変更、消防のレスキューマンを活用したPR、ママさんのネットワークの活用、大学生の定住対策) ② 教育環境の充実 (例. 特認校である野幌小学校の特色を活用、子どもの立場に立った学校の統廃合) ③ 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 環境重視や安全・安心をテーマとしたシティプロモート、ごみ収集カレンダーを活用したイベントの案内、河川防災ステーションのネーミングを募集し江別をPR)

(2) 中期的な取り組み

ハード	<p>① 空き地、空き家対策 (例. 大麻地区の住み替え対策、市営住宅の空き室の改修、大学生に安い家賃で空き家を提供し、近所の高齢者と交流)</p> <p>② 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 空き教室を地域住民の交流の場に有効活用、子どもの遊び場の充実、炊事ができる公園の整備、札幌にない住環境の良さを伸ばす)</p>
ソフト	<p>① 市内外への地域情報・生活情報の発信 (例. 江別の住みやすさをPR、小中学校の優れたスポーツ・芸術活動に関する情報発信、公園の特色をまとめたマップづくり、予防接種の個別通知、海外の都市との姉妹都市提携によるPR)</p> <p>② 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 土・日の予防接種の実施、空き教室や体育館を就学前の子どもたちに開放)</p> <p>③ 大麻地区の高齢化対策</p>
ハートづくり	<p>① 札幌に負けない住環境の整備</p>

(3) 長期的な取り組み

ハード	<p>① 江別駅周辺の整備と小学校の統廃合を一体的に実施</p> <p>② 教育環境の充実 (例. 進学校づくり、各教育機関が持ついろいろな機能を集積)</p>
ソフト	<p>① 学校を中心としたまちづくりネットワークの構築</p> <p>② 働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり (例. 保育料の値下げ、出産祝いの一時金制度の創出、学童保育の無料化、小中学校の給食費の無料化、子どもと定住する場合の家賃の無料化)</p> <p>③ 留意：子育て環境の充実に向けて、ただお金をつぎ込むだけでは駄目</p>
ハートづくり	<p>① 子どもの学力の向上 (例. 優秀な教員の確保、教員の指導力の向上)</p>

2. 戦略テーマ提言

戦略テーマ名																									
子育てしやすいまち（仮）																									
どんな状態にしたいのか																									
子どもを産み育てられる、働きながら（共稼ぎも含）子どもを産み育てられるまちづくりが、江別市の未来において大切である。																									
立案背景																									
少子高齢化による人口減少がおきている江別市にとって、子どもをいかに増やすか、すなわち安心して子どもを産み、育て、仕事ができることが重要であり、そのためには多くの支援体制が必要である。 市民会議の意見にも子育てに関する事が多く、保育園、学童保育、特別支援（障がい児）の保育、予防接種、遊び場の充実、子育て支援、費用等の充実などが上げられている。また、江別市の保育所入所待機児童数が0人であるにも関わらず意見が多い。さらに学童保育についても費用、時間、場所等のマッチング等に問題があると考えられる。平成23年度実施の、まちづくり市民アンケートにおいて、回答者の41.4%が、「子育て応援のまち」を選択しており、されらに、選択した10代～40代では52.8%と過半数を超える結果となっており、その重要性が伺える。																									
立案に関するデータ																									
○ 保育所入所待機児童数の状況（道内他都市との比較）																									
<table border="1"><thead><tr><th>指標名</th><th>調査年</th><th>単位</th><th>江別市</th><th>札幌市</th><th>小樽市</th><th>北見市</th><th>岩見沢市</th><th>千歳市</th><th>恵庭市</th><th>北広島市</th><th>石狩市</th></tr></thead><tbody><tr><td>保育所入所待機児童数</td><td>平成21</td><td>人</td><td>0</td><td>402</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>48</td></tr></tbody></table>	指標名	調査年	単位	江別市	札幌市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	保育所入所待機児童数	平成21	人	0	402	0	0	0	0	0	0	48	
指標名	調査年	単位	江別市	札幌市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市														
保育所入所待機児童数	平成21	人	0	402	0	0	0	0	0	0	48														
○ 保育園（11か所、定員計1,005名）																									
・一時預かり（2歳児から）の対応：4園																									
・一時預かり（1歳7か月児から）の対応：1園																									
・障がい児保育の対応：5園																									
○ 認定こども園（2か所、定員計35名）																									
○ 病児・病後児保育実施機関（1か所）																									
○ 学童保育（放課後児童会）（20か所、定員計685名）																									
・開所対応時間 8時～：15か所、8時15分～：1か所、8時30分～：1か所、9時～：3か所																									
・閉所対応時間 17時まで：2か所、18時まで：4か所、18時30分まで：7か所、19時まで：7か所 （土曜日 15時30分まで：2か所、16時30分まで：1か所、17時まで：1か所）																									
○ H23年度実施 まちづくり市民アンケート結果（5,000人対象）																									
<あなたが望む将来の江別市のイメージ（複数回答）>																									
・回答者の41.4%が、「子育て応援のまち」を選択																									
・「子育て応援のまち」を選択した女性：43.8%																									
・「子育て応援のまち」を選択した10代～40代：52.8%																									

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ・ 保育園、認定こども園、病児・病後児保育実施機関、学童保育等の充実
ただ施設を増やすのではなく、利用者の実態に合わせた運営をすること事が必要であり、それを行政も連携してサポートする必要がある。

2 ソフト

- ・ 保育園、認定こども園、学童保育等の利用時間の多様化、**2歳未満児**の受け入れ態勢、利用費用、魅力の向上が必要である。

3 ハートづくり

【中期】

1 ハード

子どもの遊び場の充実、

2 ソフト

- ・ 江別独自の子育て施策
市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者などと行政とが、一体になった、独自性のある子育て施策が必要である。
- ・ 子どもが安全に遊べる公園づくり
親、自治会、市民活動団体、大学、高齢者等が連携して見守る。

3 ハートづくり

【長期】

1 ハード

短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

2 ソフト

短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

3 ハートづくり

短期・中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。

戦略テーマ名

暮らしの情報発信（仮）

どんな状態にしたいのか

江別市では多くの情報が発信されているにも関わらず、情報に関する意見が多く出ている、これは情報が上手く伝わっておらず、情報が上手く集約され発信されていないためと考えられ、その情報を伝えるためには情報の発信の拠点が必要である。

立案背景

江別の情報を市内外に発信する方法とし、新たに施設を作るのではなく、現在ある情報図書館を整備し活用する方法が考えられる。江別市には情報図書館の他に、道立図書館、4大学の図書館があり、さらに公共施設と情報の共有、ネットワーク化することにより情報が多くの人々に伝えることができる。特に情報は市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者様々場所からバラバラに発信されており、それらを行政がサポートしながら連携して行うシステムづくりが必要である。

立案に関するデータ

○ 江別市を紹介するパンフレット

- ・「江別市暮らしの便利帳 2011」
（全戸、転入者へ配布）
- ・江別市勢要覧「江別」
（希望者、視察等の説明の際に配布）
- ・「えべつタウンマップ」
（市民課・大麻出張所（転入届出時）、各公民館、JR市内各駅、地下鉄大通駅、さっぽろ広域観光圏インフォメーションセンター、札幌市東京事務所、厚別区役所、「食と観光」情報館（JR札幌駅）などで配布）
- ・「えべつのじかん」
（地下鉄大通駅、札幌市東京事務所、厚別区役所、「食と観光」情報館（JR札幌駅）、さっぽろ広域観光圏インフォメーションセンター、北海道移住促進協議会、札幌市内幼稚園・保育園（白石・東・厚別・北・清田）、住宅展示場などで配布）
- ・「ちょこっとりっぷえべつ 2012」
（札幌市内の各幼稚園、保育園などで配布）
- ・「えべつコレクションV o 1. 4 2012年7月」（江別観光協会）
（市内公共施設、市内JR各駅、防災ステーション、自然ふれあい交流館、野幌総合運動公園などで配布）
- ・「えべつ農産物直売所・貸し農園MAP」（江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会）
（公民館、防災ステーション等の公共施設、農産物直売所、農産物直売所ツアーなどのイベント時などで配布）
- ・「学生が魅せる江別 創刊 えべべんちゅ」（江別四大学合同サークル えべべんちゅ編集部）
（市内4大学、市内飲食店等で設置してもらえるところを学生が自らの足で探して配布）

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ・情報図書館の活用
情報の集約と発信、各図書館や公共施設への共有とネットワーク化の可能性をさぐる。

2 ソフト

- ・江別のブランドイメージをつくり、そのイメージを発信
住みやすいまち、安心・安全なまち、
- ・江別の地域情報の発信

【中期】

1 ハード

- ・情報図書館の活用
情報の集約と発信、各図書館や公共施設への共有とネットワーク化

2 ソフト

まち全体で何かに取り組み、その取り組みで江別をPR
札幌郊外より江別市の方が住みやすいと広報する
小中学生の優れたスポーツ芸術活動の情報発信
知られていない海外の都市との姉妹提携による江別のPR
市内の公園それぞれの特色やトイレの様子をまとめたマップづくり

3 ハートづくり

【長期】

1 ハード

中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

2 ソフト

中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

3 ハートづくり

中期計画の成果を検証しつつ、継続的に情報発信を行う必要がある。

戦略テーマ名

文教のまち（学園都市）（仮）

どんな状態にしたいのか

小学校、中学校、高校、大学、短期大学が連携し、さらに市民が参加することにより、**文教のまち**としてのイメージをつくり、子どもから高齢者まで、世代間を超えた交流が可能になる。

立案背景

江別市には、5つの高等学校、4つの大学、**2つの短期大学**があり、これらを江別のまちづくりに活用する事により文教のまちと言えると考えられる。

立案に関するデータ

- 高等学校、大学の状況（平成23年5月1日現在）
 - ・高等学校数：公立3校（生徒数：3,061名）、私立2校（生徒数：1,686名）、合計5校（生徒数計：4,747名）
 - ・大学数：私立4校（学生数：10,786名）、**私立短期大学部2校**（学生数：488名）合計6校（学生数計：11,274名）

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

学生街特区というのがあるのもよいのではないか
小中高大の連携、中高一貫校やコミュニティ立学校などの設置

2 ソフト

教育特区による学力、スポーツ、音楽などで魅力的な学校づくり
小学校の英語教育や、高校生が大学の授業に参加できるような教育特区の打ち出しの検討
子どもたちに対する江別の歴史教育の充実
農地や自然を活かして保育園での体験型の教育やイベントを充実させる
国際化へ対応するため、海外留学生を積極的に受け入れ、市内小中学生との交流の場をつくる
保育園で英語教育を実施

3 ハートづくり

優秀な人材の確保

特認校である野幌小学校の特色を活用

学校の統廃合は子どもが困らないように配慮

【中期】

1 ハード

2 ソフト

3 ハートづくり

【長期】

1 ハード

小学校の統廃合は江別駅周辺の開発と同時に一体的に行うことが必要
進学校が必要

2 ソフト

統廃合よりも学校を中心としたまちづくりのネットワーク構築

3 ハートづくり

教師の指導力の向上が必要
進学校が札幌に劣るため、札幌に行ってしまうと江別に戻らない

戦略テーマ名

住まいづくり（定住・空き家対策）（仮）

どんな状態にしたいのか

江別市の人口減少を止めるためにも、江別に定住するための仕組みづくり、空き家対策が必要である。特に定住では、高齢になっても住む事ができるバリアフリー化が必要で、長年住み慣れた家を手放し、利便性良い都心のマンションや高齢者施設等に移る市民も少なくない。空き家が多くなることにより治安の悪化、積雪での倒壊の危険なども増すため、再利用する仕組みが必要である。

立案背景

江別市は、札幌に隣接し、古くから発展してきたまちである。しかし、平成 17 年をピークに人口が減少している。特に少子高齢化により、既存の住宅では高齢者の生活に配慮したものが少ない、公的な賃貸施設についても同様なうえに、エレベーターの無いものも多い。さらに人口減少の影響もあり、古くからある地域では空き地、空き家が増えている。

立案に関するデータ

○ 高齢化率の推移（江別市将来人口推計結果）

		総人口	高齢者人口 (65 歳以上)	
			人数	割合
実績値	平成 12 年	123,877 人	18,837 人	15.2%
	平成 17 年	125,601 人	22,481 人	17.9%
	平成 22 年	123,722 人	27,030 人	21.8%
推計値	平成 25 年	122,257 人	30,868 人	25.2%
	平成 30 年	119,046 人	36,624 人	30.8%
	平成 35 年	114,864 人	40,785 人	35.5%

（実績値は国勢調査）

○ 市街化区域における高齢化率 30%以上の地区（平成 22 年国勢調査ベース）

<江別地区>

①条丁目：40.5%、②工栄町：30.8%

<野幌地区>

①野幌代々木町：32.8%、②錦町：30.1%

<大麻・文京台地区>

①大麻栄町：45.2%、②大麻東町：38.4%、③大麻高町：34.6%、④大麻沢町：32.7%、

⑤大麻北町：30.8%、⑥大麻園町：30.0%

○ 平成 17 年と平成 22 年の人口比較（国勢調査ベース）

<-200 人未満>

元江別、見晴台、文京台、文京台東町

<+1 人～+199 人>

萌えぎ野中央、萌えぎ野東、東光町、朝日町、条丁目、若草町、野幌寿町、野幌末広町、緑ヶ丘、大麻新町、大麻晴美町、大麻扇町、文京台緑町

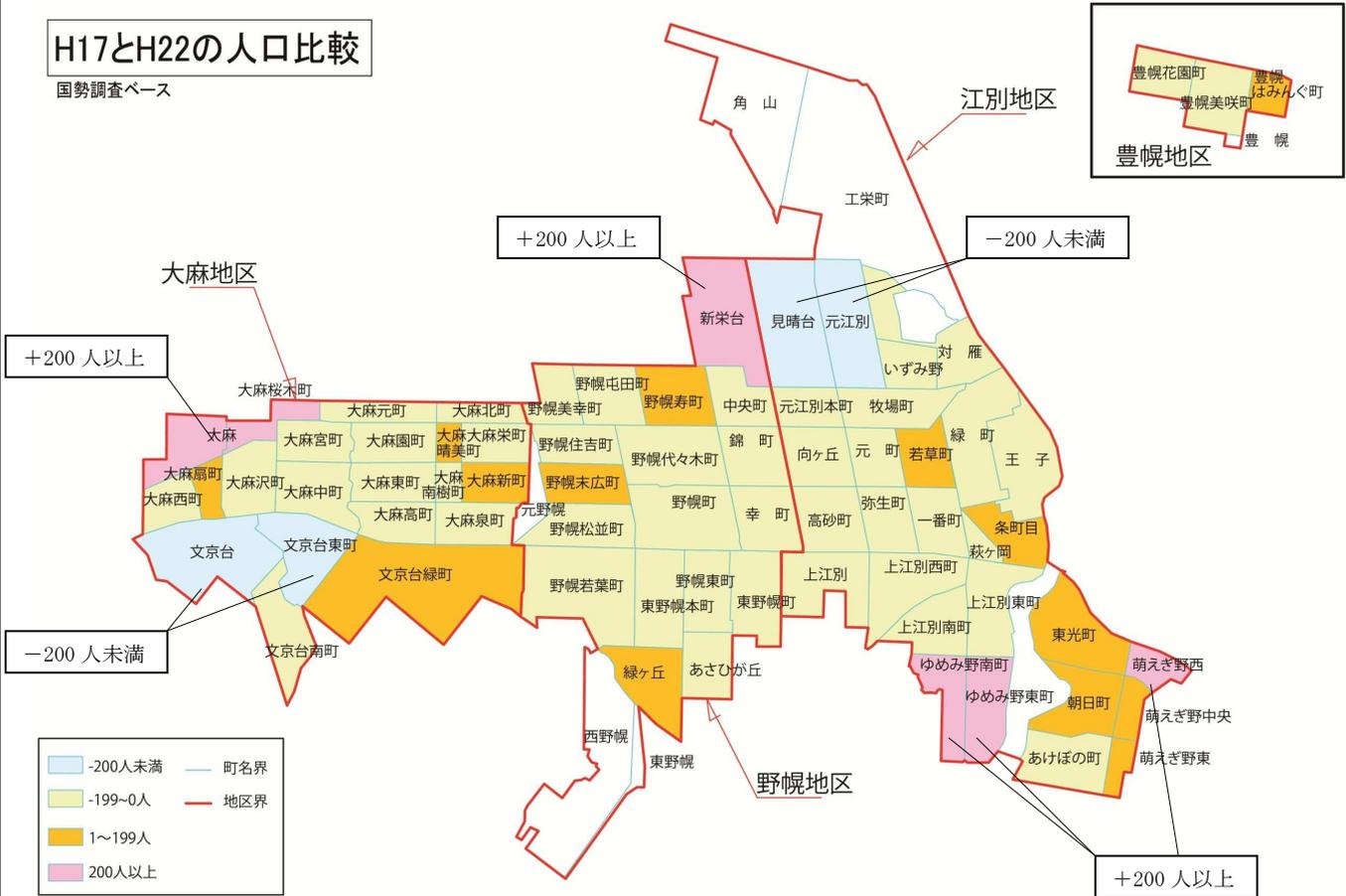
<+200 人以上>

萌えぎ野西、ゆめみ野東町、ゆめみ野南町、新栄台、大麻桜木町、大麻ひかり町

上記以外の地区は、-199 人～0 人。

H17とH22の人口比較

国勢調査ベース



戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ・地価を抑えて若年層にも購入しやすくする取り組み

2 ソフト

- ・定住するための仕組みづくりが必要である。

【中期】

1 ハード

- ・大麻地区の空き家対策
安い家賃で大学生に住んでもらい、大学生と高齢者の交流による高齢者対策も実施

札幌にない住環境の良さをさらに伸ばす

空き教室の有効活用による地域住民との交流

2 ソフト

少子高齢化対策
江別の市街化区域における高齢者率は高くなっており、

3 ハートづくり

【長期】

1 ハード

2 ソフト

子どもと定住する場合の家賃無料化

3 ハートづくり